



明日を語ろう！ 北の農業人

KITANO NOUGYOUBITO

北海道農業に限りない愛情を注ぎ、
たゆまぬ努力を続ける人々がいます。
農業の未来を創造する「北の農業人」の
情熱や取り組みをご紹介します。



●吉川リコさんはアスパラガスの葉面散布資材の研究に加え、栽培環境による植物のダメージを軽減するバイオスティミュラント資材の研究も行っています。



●田中七海さんはアスパラガスの高畦栽培を研究しています。畦を高くすることで、楽な姿勢で収穫ができ、作業効率も高められることが期待されています。



●遠赤外線LEDの照射が、アスパラガスの生育や病気の発生に与える影響を研究している芝峻太さん。植物病理に興味があり、その知識に仕事にも生かしたいといっています。

●アスパラガスの研究で生産現場の課題解決をめざす
持続可能な農業の実現に向けて、
大学での学びや研究を糧に
農業と生産者の未来を支えていく。

〔江別市〕
学校法人酪農学園 酪農学園大学
吉川リコさん
芝峻太さん
田中七海さん



野菜や米を育てることで人に喜ばれる魅力的な仕事でした。

生産現場と連携しながら 課題解決に取り組む

将来は畑作を中心とした農業に関わりたい、という思いを持っていた3人は、フィールドワークが多く、生産現場と連携して活動できる園田ゼミを選択しました。ゼミ活動では北海道だけでなく、本州のアスパラガス生産者の依頼にも応じ、現地に赴いて土壌や生育状況の調査などを実施。多様な地域の生産者との関わりを通して気づくことが多く、それが卒業研究にもつながりました。

田中さんは、生産者の高齢化が進み、

農業への憧れや親しみが
将来の進路につながる

アスパラガス研究の第一人者として、環境変化に適応した栽培方法の研究や新品種の開発などに取り組む酪農学園大学の園田高広教授、園田教授のゼミ「農場生態学研究室」では、生産現場の課題解決を図り、農業に貢献しようとする学生さんたちが学んでいます。

芝峻太さん、吉川リコさん、田中七海さんは、循環農学類農学コースの4年生。共にアスパラガスを対象にした卒業研究に取り組んでいます。

「暑い中、畑作農家の祖父父母が懸命に働く姿を見て、格好いいなと感じていました」と話す芝さんは札幌の出身。高校



●アスパラガス研究の第一人者である園田高広教授の下で、実践的に学んでいる3人。生産現場と関わる中で、高齢化や気候変動による影響など多くの課題に気づき、その解決のための力になりたいと考えています。

農作業の負担が増えていることに着目。14種のアスパラガスを高畦栽培し、特性の評価を行っています。「高畦栽培は収穫作業の省力化や効率化が可能で、連作障害を防ぐこともできます。高畦栽培での品種の特性を明らかにし、普及につなげたい」とねらいを話します。

吉川さんは本州のビニールハウスが非常に高温になることを体感し、問題意識を持ちました。現在は、植物ホルモン剤などの葉面散布資材が高温障害に及ぼす影響を研究しています。「アスパラガスは高温に弱く、特にハウス栽培では障害が起きやすくなります。葉面散布資材が高温対策に効果があれば、課題解決につながる」と考えました。

植物病理に関心があるという芝さんは、遠赤外線LEDの照射がアスパラガスの生育や褐斑病の抑制に及ぼす影響を研究しています。「褐斑病の病理に関する研究報告は少なく、何かできればという思いがありました。近年、光を用いた病害防除の方法が注目されているため、農業の使用量削減を目的に遠赤外線LEDのアスパラガスに対する影響を明らかにしたい」と言います。

テーマは三者三様ですが、生産者のために何かをしたい、という思いは同じ。生産現場が抱える課題解決に向けて試行錯誤を続けています。

北海道の農業に貢献するという目標に向けて、研究に打ち込む3人。農業の魅力を語る姿に、未来を担う頼もしさを感じました。

大学で得た知見を生かし 未来の農業を支える存在に



●愛情をかけて育てたアスパラガスは甘くておいしいと評判なのだそうです。



●学内ではさまざまな環境を設定し、アスパラガスを栽培しています。

